

精選 折口信夫

V

随想ほか・遼空詩編

折口信夫

岡野弘彦 編

慶應義塾大学出版会

精選

折口信夫

V

随想ほか・遼空詩編

目次

凡例

零時日記（I）

7

海道の砂 その一

18

折口といふ名字

37

わが子・我が母

45

留守ごと

52

細雪以前

59

茶栗柿譜（抄）

67

増井の清水の感覚

71

花幾年

73

自歌自註 海やまのあひだ（抄）「夜」「島山」

77

自歌自註 春のことぶれ（抄）「氣多はふりの家」

90

山の音を聴きながら

93

招魂の御儀を拝して

99

島の青草 沖繩を偲びて

104

古事記の空 古事記の山

110

飛鳥をおもふ

116

春の歌の話

128

野山の春

133

鏡花との一夕

136

寿詞をたてまつる心々

142

平田国学の伝統

154

民族教より人類教へ

182

詩語としての日本語

186

詩歴一通 私の詩作について

206

『古代研究』追ひ書き

216

*

民族史観における他界観念（草稿）

242

*

遼空詩編

289

先生晩年の歳末・年始

岡野弘彦

334

解題

長谷川政春

341

迢空詩編

『古代感愛集』抄

追悲荒年歌

ちゝのみの 父はいまさず、
はゝそばの 母ぞ かなしき。
はらからの 我と、我が姉
日に 夜に 罵ばえにけり。

怒ります 母刀 自見れば
泣き濡れて くどき給へり。
そこゆゑに、母の かなしさ――。

家荒れて 喰ふものはなし。

屋場寒く 鳥もあそばず。

あはれ かの雀の子らは、

軒の端ゆ 顔さし出でゝ

ちゝと鳴き くゞもり鳴きて、

声やめぬ。ふた声ばかり――

すゞめ子も、餓ゑ寒からむ。

あはれく 喰ふ物やらむを――。

腹へりて 我も居にけり。

頻々に いたむ腹かも――

晴るゝ日の空の 青みに

こだまする もの音もなし。

静かなる村の日ねもす――

村びとも　みなから飢ゑて、

ま昼たゞ　寝貪るらむ。

朝明あさけよりものに行きて、

歸り来し姉のみのこと、

我を見て　あはれと言らし、

町人まちびとの、姉にくれたる

蕎麦の粉の練ねれる餅もちひの

焼きもちひ　喰へと言ひて、我に給たびたり。

くるゝ時、我を見し目の

姉が目の、さびしかりしを

髣髴おもかげに　今も忘れず――。

ひた喰はゞ　片時の間ぞ――

喰はざらば　腹ぞ　すべなき――。

蕎麦もちひ 惜しみ たしみて、
ねもごろに 我が喰ひをるに――
ほろく と とすれば崩えて――
もろくくづるゝ蕎麦の粉の すべもすべなさ

反歌

いとけなくて 我は見にしか。野山にも 交らひ浅き若うどの 群れ
なかくに 鳥けだものは死なずして、餌ばみ乏しき山に 声する

家に養ふものは しづかになりにけり。馬すら あしを蹈むこともなし

昭和十年七月「短歌研究」第四卷第七号

幼き春

わが父にわれは厭いとはえ、
我が母は我を愛めづまず。

兄 姉と 心を別わきて
いとけなき我を 育おふしぬ。

童わらはにて 我は知りたり―。

まづしかる 家の子すらや、
よき親を持ちて ほがらに
うれしけき日毎ひごと遊びに、
うちあぐる声の たのしさ。

陰深き家の 軒たいすべに
其そを見ると イみ居をれば、
おのづから 爪く咋くはれつゝ。

よき衣きぬを 我われは常ときに著

赤あかき帯 高たかく結むすびて、

をみな子の如ごとく装よそはひ ある我われを

子こらは嫌きらひて、

年としおなじ同どう年ねん輩ばいの輩どちも

爪つま弾はじきしつゝ より来きず。

たゞ一ひと木 辛こ夷ふし 花はな咲さき

春はるの日の ほろゝに寒ふき

家裏いへうらの蔵庭くらにはに居ゐて、

つれぐと、心こころ疲つかれに

泣なきなむと わがする時とき――

隣となり家やと 境さかふ裏戸うらどの

木戸きどの外とに人ひとは立たたして、

白き手を 婉たよにふらせり。

我が姉の年より 長たけて、
わが姉と 似てだに見えず――

うるはしき人の立たして、
我を見て ほのぐ笑める――。

しばぐも わが見しことを――
今にして 思ひし見れば、

夢の如 その涕おも薄れ
はかなくも なりまさるなり。

もの心つけるはじめに
現まじしくも 見にける人――

年高くなりぬる今し、
思へども、思ひ見がたく
いよゝなり行く

反歌

春早き辛夷の愁ひ咲きみちて、
たゞに
ひと木は
すべなきものを

昭和十二年一月「むらさき」第四卷第一号

干瀬の浪

国頭^{くにがみ}の辺戸^{へど}のみ崎に
わが来たり
息づきにけり

国の秀^はを遠く来離れ―
人の住むところも見えず―

ひさかたの
空に續きて

洋^{わた}の波
青く澄みたり

照れる日に
我は来たりて、
照りあまりけぶる真昼に、